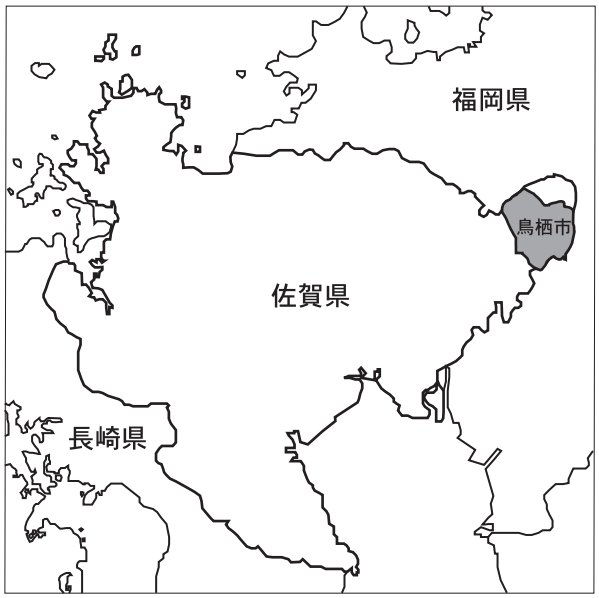
鳥栖市文化財調査報告書第 82 集

上　天　遺　跡

共同住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書



２０１０

鳥栖市教育委員会

鳥栖市文化財調査報告書第 82 集

上（かみ）天（あま）遺跡

共同住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書

２０１０

鳥栖市教育委員会

序

本書は、共同住宅建設に伴い埋蔵文化財発掘調査を実施した鳥栖市田代大官町に所在する上天遺跡の調査報告書です。

鳥栖市には、多くの文化財が存在しています。しかし、近年の開発によって貴重な先人の足跡が失われていくこともあり、教育委員会では、後世に伝えるために発掘調査を実施しております。

調査の結果、古墳時代及び中近世の遺構・遺物を確認することができました。本書を通じて地域の文化財に対してご理解をいただき、また学術文化の向上に寄与するものであれば幸いに存じます。

最後になりますが、文化財保護にご理解とご協力をいただきました中冨靖夫様、そして発掘作業や整理作業に従事された方々に厚く御礼を申し上げます。

平成22年３月12日

鳥栖市教育委員会
教育長　　楢﨑　光政

例　言

１．本書は共同住宅建設に伴い発掘調査を実施した、田代大官町に所在する上天遺跡の調査報告書である。

２．発掘調査は平成21年9月14日～10月27日、整理報告は平成21年11月４日～平成22年3月12日まで、中冨靖夫 氏の委託を受けて鳥栖市教育委員会が実施した。

３．報告書作成作業は鳥栖市牛原町文化財整理室で行った。なお、現地調査から報告書作成までの作業に従事したものは下記のとおりである。

・発掘作業　　皆良田憲男・皆良田涼子・古賀道治・片田勝美・篠原英雄・陶山尚史・直塚　功・永渕笑美子・中村光子・平田博子・山本美代子

・遺構実測　　中村光子・平田博子・山本美代子・島　孝寿

・遺構遺物写真　　島　孝寿

・遺物復元　　中村光子・平田博子・山本美代子

・遺物実測　　権藤由美子・中田里美・毛利よし子・島　孝寿

・製　　図　　権藤由美子・中田里美・毛利よし子

４．本書の執筆・編集は島が担当した。

凡　例

１．遺跡の略号はSKAである。

２．方位は座標北である。また測定値の表示に用いた単位は遺構m、遺物b を原則としている。

３．表で示した計測値は、（　　）は復原値・推定値、〈　　〉は残存値を表記するものとする。

４．遺構種別記号は、下記のとおりである。

SH：住居　　SK：土坑　　SP：土壙墓　　SD：溝　　SI：竪穴　　P：小穴・柱穴

本文目次

第１章　調査の概要 …… 1
　Ⅰ．調査に至る経過 …… 1
　Ⅱ．調査の組織 …… 1
第２章　地理的・歴史的環境 …… 2
　Ⅰ．地理的環境 …… 2
　Ⅱ．歴史的環境 …… 2
　Ⅲ．遺跡の位置と環境 …… 3
第３章　調査の内容 …… 5
　Ⅰ．遺跡の概要 …… 5
　Ⅱ．１区の調査 …… 5
　Ⅲ．２区の調査 …… 11
第４章　まとめ …… 15

挿図目次

図1　遺跡分布図（1/20,000） …… 2
図2　遺跡位置図（1/2,500） …… 3
図3　遺構配置図（1/200） …… 4
図4　SD101・SD102・SD103土層図（1/40） …… 5
図5　SD101出土遺物1（1/2･1/3･1/6） …… 6
図6　SD101出土遺物2（1/2･1/3･1/4） …… 7
図7　SK106・SK107・SK108（1/40） …… 8
図8　SK106・SK107出土遺物（1/3） …… 8
図9　SK109出土遺物（1/3） …… 8
図10　SK111（1/40） …… 9
図11　SK111出土遺物（1/3） …… 9
図12　SH104・SI105（1/60） …… 9
図13　SH104・SI105出土遺物（1/3） …… 9
図14　SP112・SP113・SP114・SP115・SP116・SP117（1/40） …… 10
図15　SP114・小穴出土遺物（1/3） …… 10
図16　SK201（1/40） …… 12
図17　SK201出土遺物（1/2・1/3） …… 12
図18　SK202・SK203・SK204・SK205（1/40） …… 13
図19　SK202・SK203出土遺物（1/2･1/3） …… 13

表目次

表１　上天遺跡1区　遺物一覧表 …… 14
表２　上天遺跡2区　遺物一覧表 …… 15

写真図版目次

写真図版１　1. 1区・2区全景（南から）　2. 1区全景（南東から）　3. SD101・SD103（東から）
4. SD101（西から）　5. SD101（北西から）

写真図版２　1. SD101陸橋（南西から）　2. SD101陸橋土層（南から）　3. SD102（北西から）
4. SH104・SI105（北東から）　5. SK106・SK107・SK108（北東から）
6. SK111（北東から）　7. SP112～SP117（北東から）　8. 作業風景（南東から）

写真図版３　1. 2区全景（西から）　2. 2区全景（南東から）　3. SK201（西から）
4. SK202（北から）　5. SK203（南から）

写真図版４　1. SD101出土遺物　2. SD101出土遺物　3. SD101出土遺物
4. SD101出土遺物内　鉄滓　5. SD101出土遺物　6. SK201出土遺物
7. SK201出土遺物　8. SK202出土遺物

第１章　調査の概要

Ⅰ．調査に至る経過

平成21年７月17日付けで、中冨靖夫氏より鳥栖市田代大官町字下町336番1、3,323㎡について、共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘の届出が鳥栖市教育委員会に提出された。

生涯学習課では、平成21年８月10、11、17～19日に確認調査を実施し、対象地内1,000㎡から遺構を確認した。協議の結果、建物により掘削される約600㎡について、平成21年度内に発掘調査を行い記録保存することで合意した。

本調査は平成21年９月14日から10月27日にかけて実施し、出土遺物・調査記録類の整理および調査報告書作成業務は、平成21年11月４日から平成22年３月12日の期間、鳥栖市牛原町文化財整理室において実施した。

Ⅱ．調査の組織

鳥栖市教育委員会が主体となって実施した。組織は以下のとおりである。

調査主体	鳥栖市教育委員会		
総括	教育長	楢﨑　光政	
	教育部長	西山　八郎	
	生涯学習課長	中島　光秋	
	生涯学習課参事	篠原　久子	
調査	生涯学習課文化財係		
	文化財係長	久山　高史	
	主査	鹿田　昌宏	（事前審査・確認調査担当）
	主査	重松　正道	
	主査	内野　武史	
	主査	島　　孝寿	（本調査・報告書作成担当）
	主査	大庭　敏男	

第２章　地理的・歴史的環境

Ⅰ．地理的環境

佐賀県東部に位置する鳥栖市は、福岡県久留米市・小郡市・筑紫郡那珂川町と県境を接し、南には筑後川が流れ、北は背振山地の東端に位置し、東西に筑後平野・佐賀平野を持つ地域である。上天遺跡は、鳥栖市の北東、標高約36mの中位段丘上に立地している。

Ⅱ．歴史的環境

鳥栖市は、九州縦貫道と九州横断道、ＪＲ鹿児島本線と長崎本線及び久大本線、国道３号線・34号線等が交差し、また古代には大宰府・筑後国府・肥前国府を結ぶ官道（城の山道・筑後路・肥前路）、近世には長崎街道が通過する場所に立地しており、長い間九州の大動脈を結ぶ交通の要衝の地である。

市内には現在、約180遺跡が確認されており、旧石器時代から近世にかけて様々な遺構・遺物が出土している。弥生時代では、安永田遺跡・本行遺跡から銅鐸の鋳型を含む多くの青銅器・鋳型が出土している。柚比本村遺跡からは、赤漆玉鈿装鞘銅剣を含む７本の銅剣が甕棺墓及び木棺墓より出土し、それらの墓域群と同一空間に立地する大型掘立柱建物が確認されている。古墳時代後期には大型古墳群が出現し、そのなかで田代太田古墳（彩色系装飾古墳）については国史跡となっている。中世では多くの館跡や町屋跡を確認しているが、特に勝尾城筑紫氏遺跡は、広大な敷地とともに城及び館跡が良好な状態で残っており、北部九州における戦国期

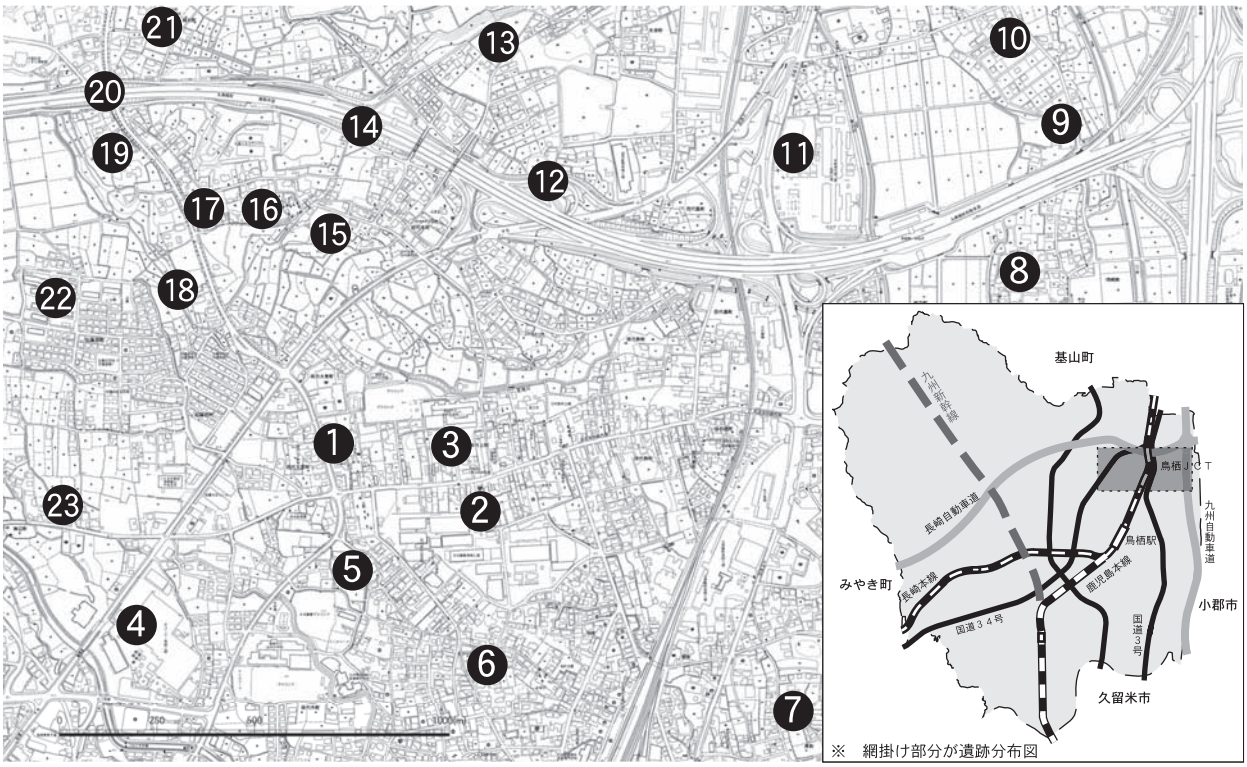


図１　遺跡分布図（1/20,000）

q 上天遺跡　w 田代大官町遺跡　e 田代代官所跡　r 薮原遺跡　t 田代外町遺跡　y 清水ヶ本遺跡　u 本原遺跡　i 幡崎遺跡　o 立田石遺跡　!0南西川遺跡　!1本川原遺跡　!2田代天満宮東方遺跡　!3フケ遺跡　!4東田古墳　!5畑ヶ田遺跡　!6岡寺古墳　!7田代太田古墳　!8中島遺跡　!9庚申堂塚古墳　@0荻野遺跡　@1安永田遺跡　@2加藤田遺跡　@3中川原遺跡

図２　遺跡位置図（1/2,500）　　※（　　）は江戸時代の主要施設

の代表的な遺跡と言われている。なお平成17・21年度に一部が国指定となっている。江戸時代に入ると概ね、安良川を境にして東地区が対馬藩田代領、西地区は佐賀藩に分かれる。昭和29年、鳥栖町・田代町・基里村・麓村・旭村が合併し、鳥栖市が誕生し、現在に至っている。

Ⅲ．遺跡の位置と環境

市内の遺跡は、主に高位段丘～低位段丘上で展開しており、旧石器時代～近世にかけて約180遺跡が確認されている。また沖積層が広がる南部地区では、遺跡の痕跡は殆どみることはできない。

上天遺跡は、九千部山（848m）の南から城山（501m）・群石山（201m）に至る支嶺の間の断層線に沿って流れる大木川左岸地区の中位段丘上に立地する。周辺には、田代大官町遺跡・田代外町遺跡・加藤田遺跡・田代代官所跡などがあり、弥生時代から近世にかけての遺構・遺物が出土している。

今回調査した地点は、古墳時代・中近世の遺構で構成されている。古墳時代については土坑・住居、中近世では、溝・土坑・近世墓などを確認した。

当地南には、長崎街道が通っており、また鳥栖市立田代小学校周辺には「田代代官所」「東明館」などがみられ、この一帯は対馬藩田代領の中心地であった。なお、現在の光徳寺（調査区南）の場所には浄土真宗の「筑紫御坊」が創建されていた模様である。

図３　遺構配置図（1/200）

第３章　調査の内容

Ⅰ．遺跡の概要

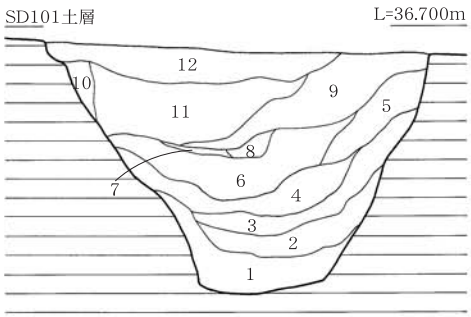
上天遺跡は、過去本調査が行われた地区はなく、商店建築の際の試掘調査により、古墳時代の遺構・遺物が出土していたに過ぎない。今回、共同住宅建設地3,323㎡ のうち約1,000㎡ から遺構を検出し、そのうち削平される約600㎡ について1区・２区の調査区を設定し本調査を実施した。調査の結果、土坑11基、溝３条、住居１軒、近世墓６基などを検出した。土坑（10基）、住居については古墳時代後期、溝は中世後期から近世にかけてのものである。遺物については、土師器、須恵器、陶磁器、瓦などが出土している。

Ⅱ．１区の調査

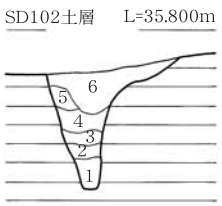
SD101

１区をほぼ東西方向に横断する。上面幅は2.0～2.5m、底面幅0.7m、深さ最大1.3m前後を測る。断面は逆台形状である。SD102及びSD103に接している。SD103に接する地点には、幅最大1.5m、高さ0.65mの陸橋が設けられている。掘り返した形跡は見られず、18世紀半ばには溝の機能は失われている。

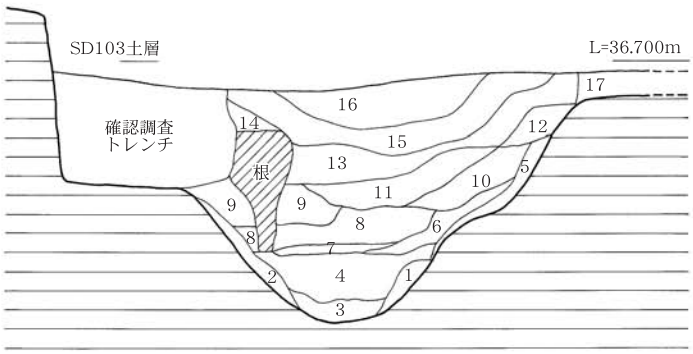
出土遺物は、図5-1～9、12は染付。10は瓶で内部に鉄滓が残存する。11は蓋、13・14は甕、15は火入、16は小皿、

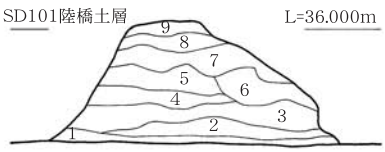


SD101土層
1　黄褐色土（褐色土ブロック、土師器片を若干含む。）
2　淡黒褐色土（黄褐色土ブロックを若干含む。）
3　褐色砂質土（橙色土ブロック、瓦片を含む。）
4　褐色砂質土（淡黒褐色土ブロックを若干含む。）
5　褐色土
6　褐色土（橙色土ブロックを若干含む。）
7　褐色土（6層より明るい。）
8　褐色土（6層より暗い。）
9　明褐色土（橙色土ブロックを若干含む。）
10　明褐色土（9層と同様。）
11　褐色土（橙色土ブロック1×1を若干含む。）
12　黄褐色土



SD102土層
1　褐色土（黒褐色土のブロックを若干含む。）
2　褐色砂質土
3　褐色砂質土（2層より若干明るい。）
4　褐色土（黄褐色土ブロックを若干含む。）
5　褐色土（４層よりわずかに明るい。）
6　褐色土





SD101陸橋土層
1　黄褐色土（橙色土ブロックを含む。）
2　黄褐色土（1層より多くの橙色土ブロックを含む。）
3　灰褐色土（黒褐色土、橙色土ブロックを若干含む。）
4　黄褐色土（灰白色土、橙色土ブロックを若干含む。）
5　黄褐色土（灰白色土ブロックを含む。）
6　明黄褐色土（灰白色土ブロックを含む。）
7　黄褐色土（一部腐食。）
8　黄褐色土（灰白色粘質土ブロックを含む。）
9　橙色砂質土

SD103土層
1　黒褐色土（褐色土、橙色土ブロックを若干含む。）
2　黒褐色土（1層と同じ。）
3　褐色土
4　黄褐色土（橙色土ブロック1×1を多数含む。）
5　橙色土（褐色土ブロックを多数含む。）
6　褐色土（黄褐色砂質土を若干含む。）
7　褐色土（黄褐色土ブロックを若干含む。）
8　黄褐色土（黄褐色砂質土を若干含む。）
9　明褐色土（橙色土ブロックを若干含む。）
10　褐色土
11　暗褐色土
12　褐色土（10層より若干明るい。）
13　褐色土（10層と同じ。）
14　暗褐色土
15　明褐色土（橙色土ブロックを若干含む。）
16　褐色土（橙色土ブロックを若干含む。）
17　褐色土（橙色土ブロックを若干含む。）

0　2m

図４　SD101・SD102・SD103土層図（1/40）

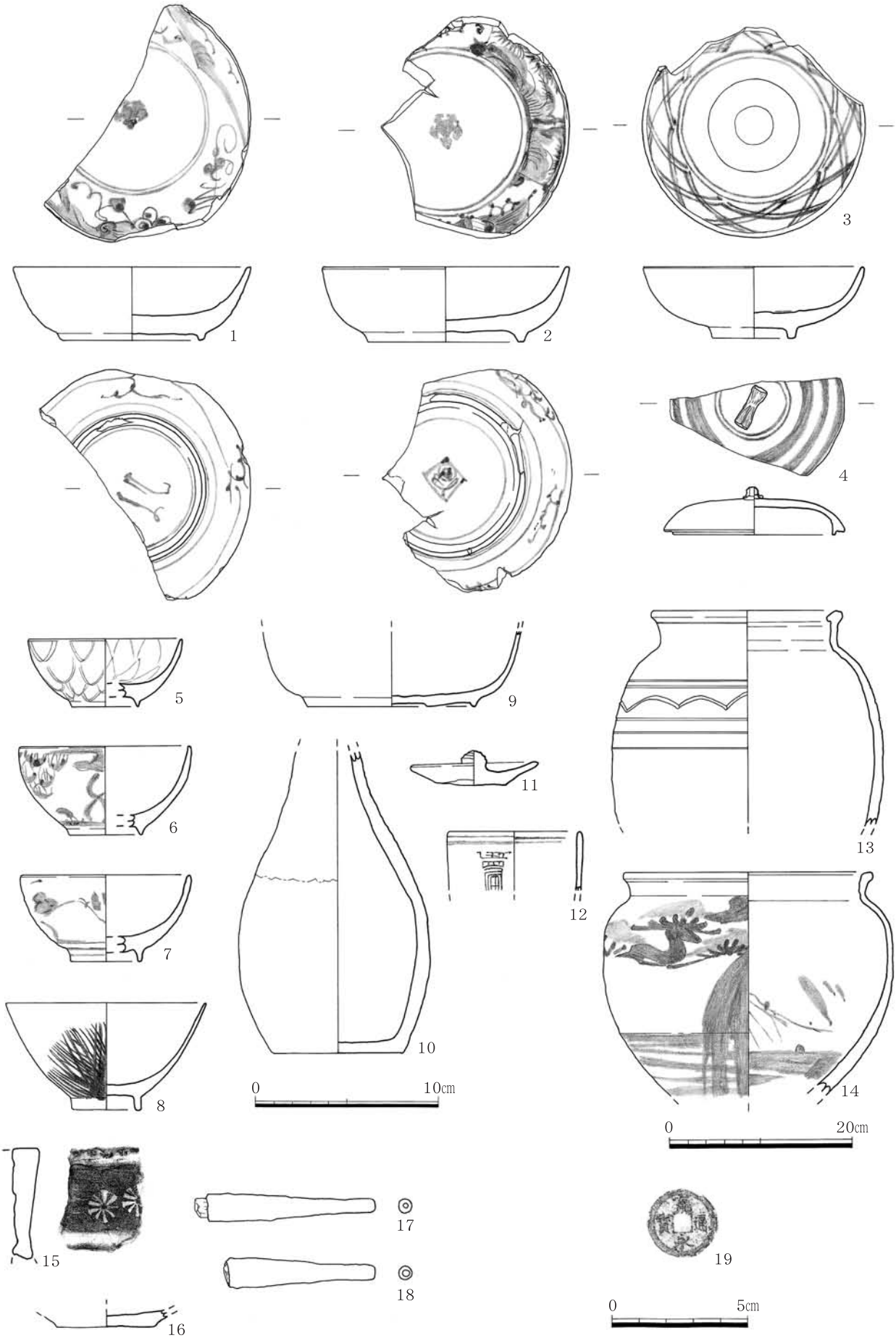
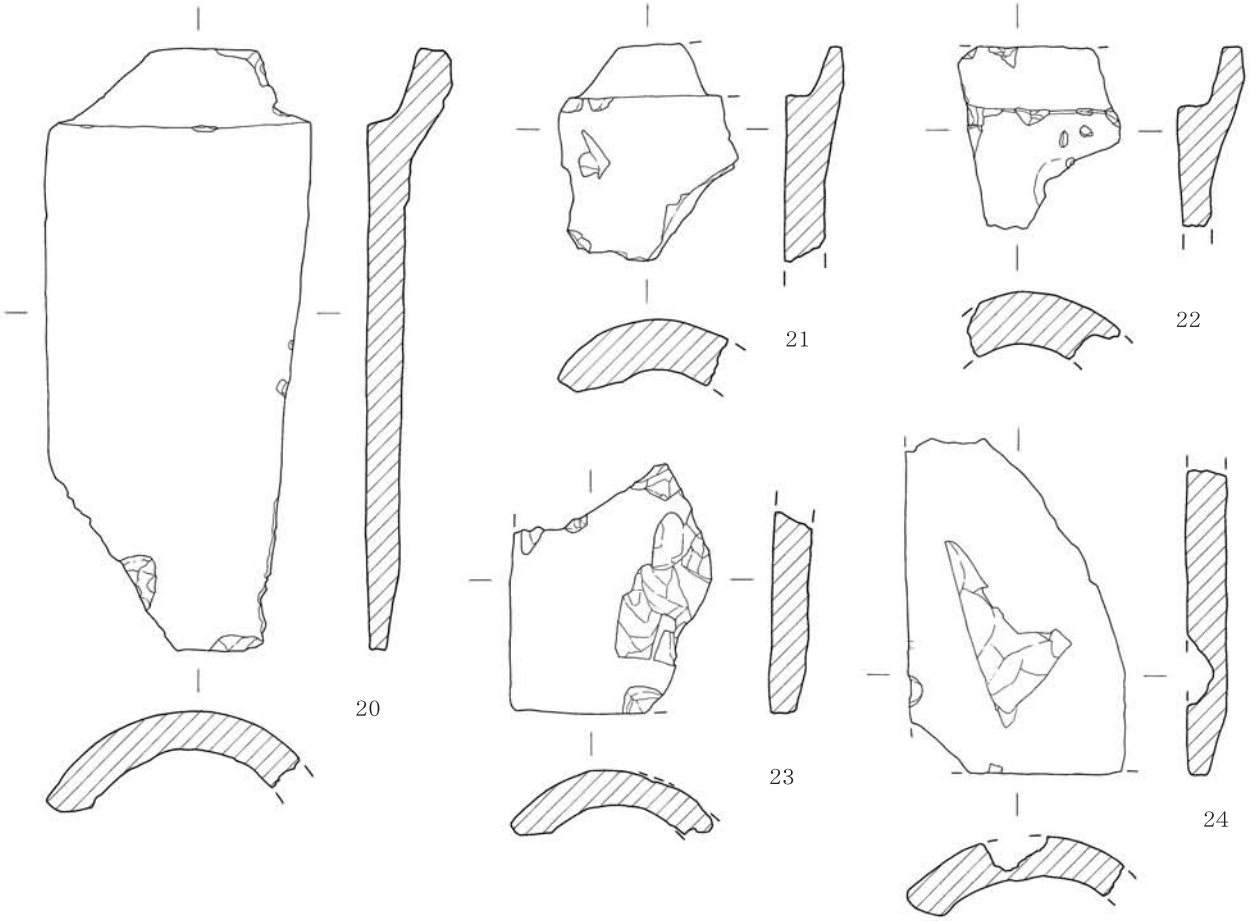
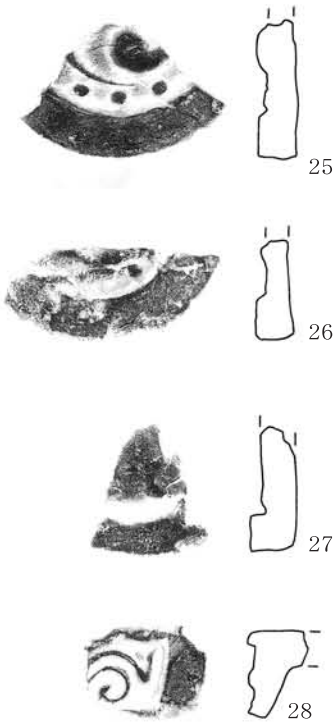
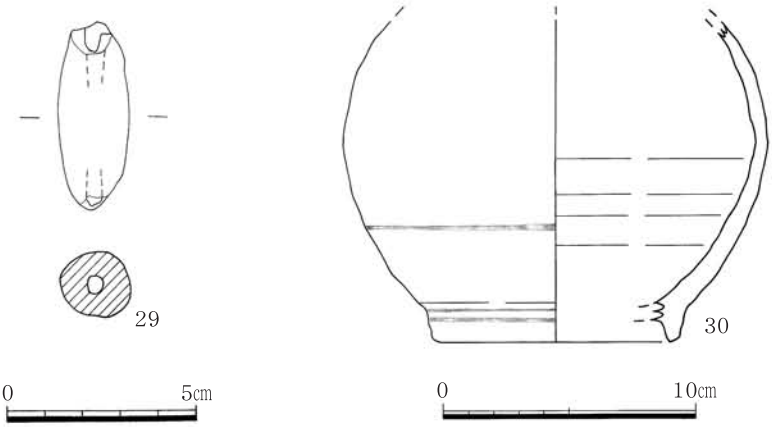


図５　SD101出土遺物１（1/2・1/3・1/6）







17・18は煙管、19は銅銭（寛永通宝）、20～28は瓦、うち20～24は丸瓦、25～27は軒丸瓦、28は軒平瓦である。報告書記載外を含めたSD101から出土した瓦の重量は51o を量る。29は土錘。

SD102

南北方向に横断する。上面幅は0.7m、底面幅0.1m、深さ最大0.7m前後を測る。断面は逆台形である。切り合いは、攪乱を受けていたため不明であるが、SD101に伴う溝と思われる。

出土遺物は図6-30の白磁壺のみである。

図６　SD101出土遺物２（1/2・1/3・1/4）

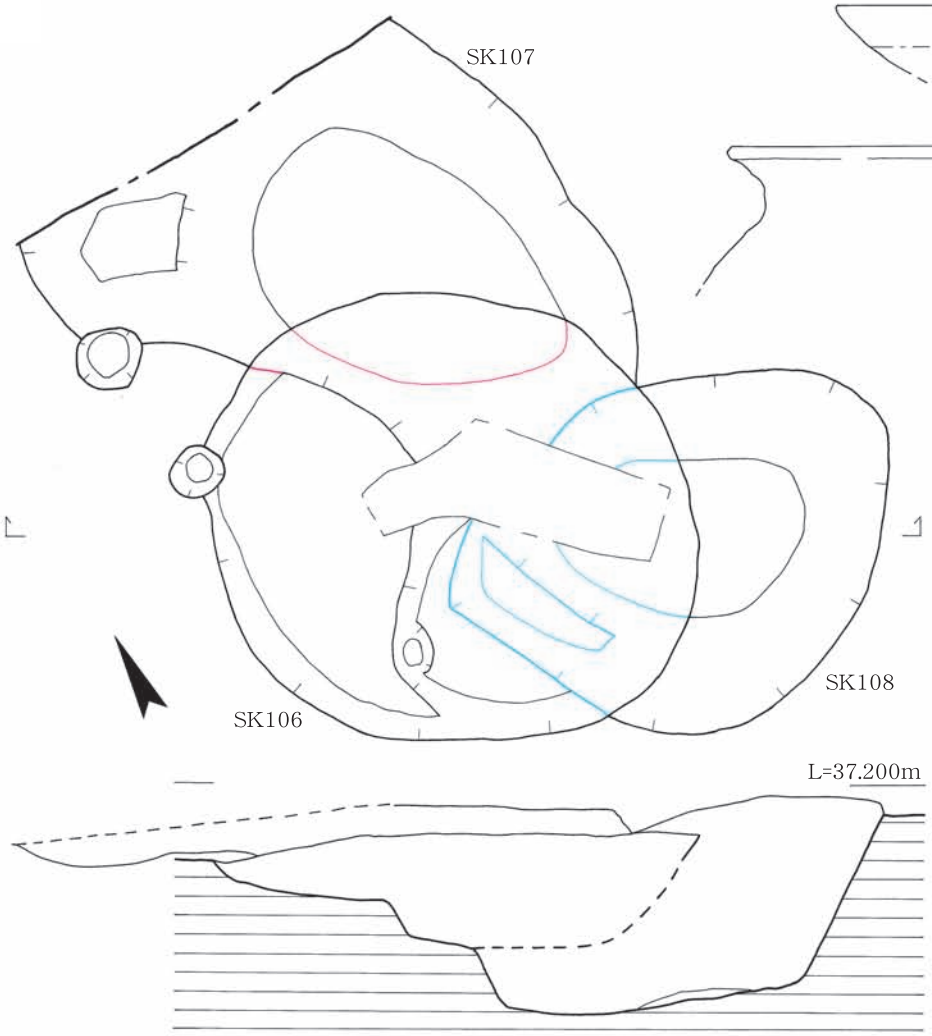


図７　SK106・SK107・SK108（1/40）

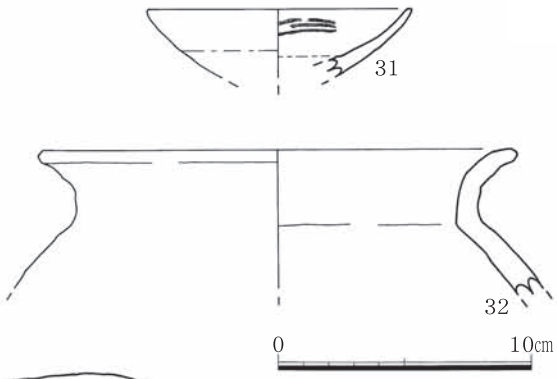


図８　SK106・SK107
出土遺物（1/3）

SD103

上面幅は2.8ｍ、底面幅0.5ｍ、深さ最大1.2ｍ前後を測る。断面は緩やかなＶ字である。溝は調査区外に延びる。SD101陸橋を利用し区画溝を形成しているものと思われる。

SK106

SK107・SK108と切り合い関係をもつ。平面は長円形を呈し、長軸2.62ｍ、短軸2.35ｍ、深さ0.6ｍを測る。近代の基礎によって一部削平を受けている。

出土遺物は、図8-31の染付皿。

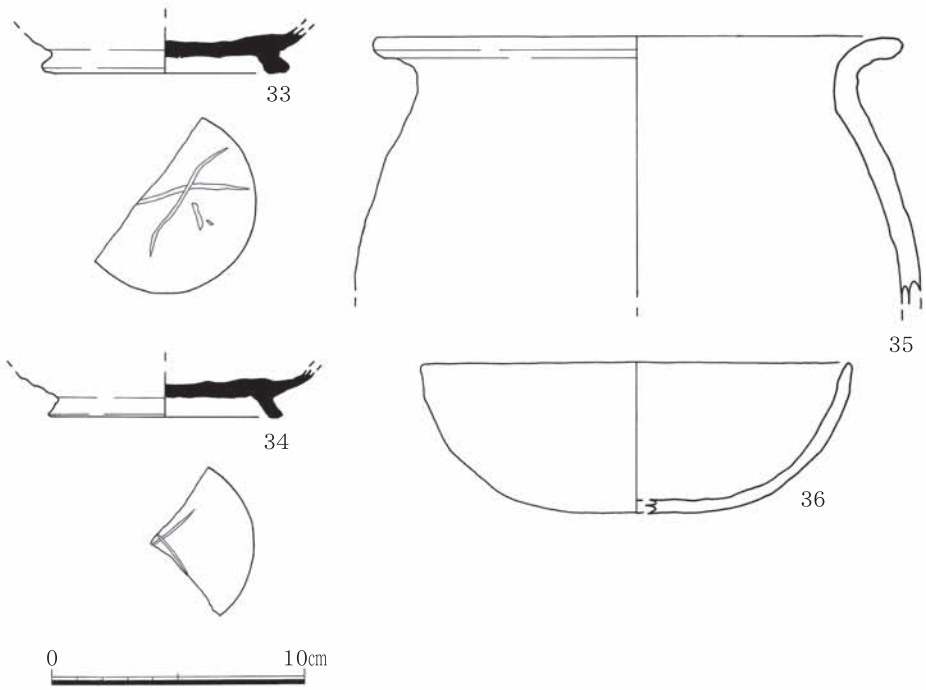


図９　SK109出土遺物（1/3）

SK107

SK106・SK108と切り合い関係をもつ。一部が調査区外のため詳細は不明だが、平面は楕円形と思われ、長軸2.4＋ｍ、短軸2.48ｍ、深さ1.10ｍを測る。

出土遺物は、図

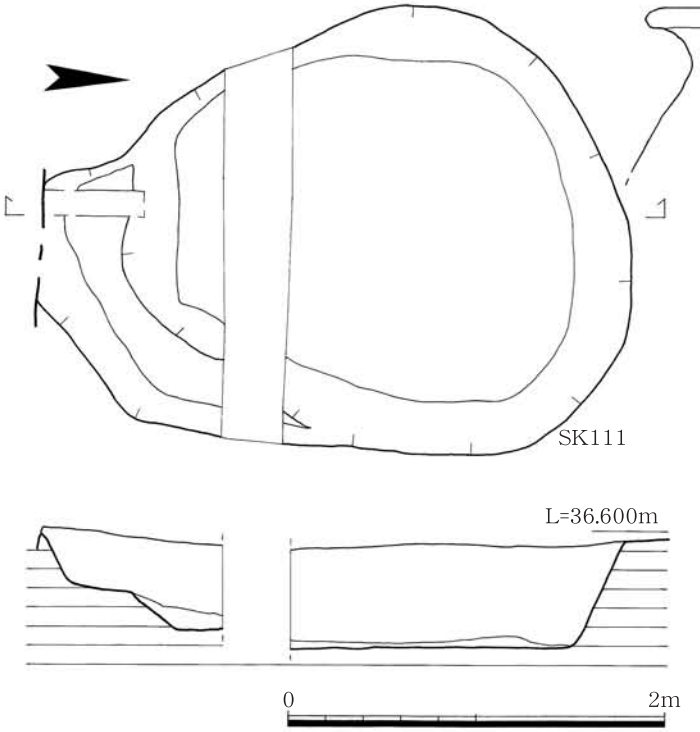


図10　SK111（1/40）

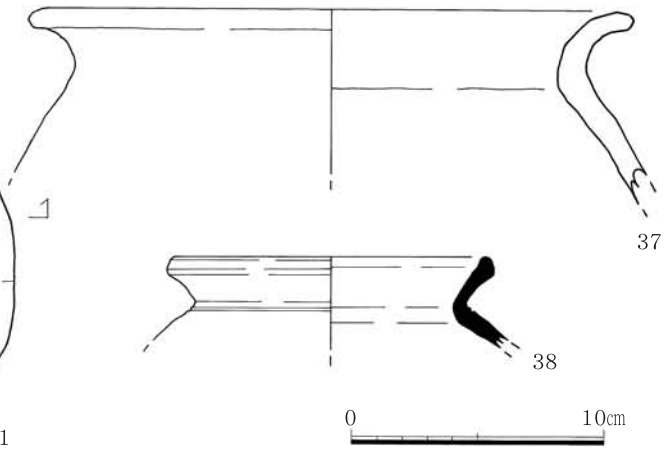


図11　SK111出土遺物（1/3）

8-32の土師器甕。

SK108

SK106・SK107と切り合い関係をもつ。平面は不整な楕円形を呈し、長軸2.50m、短軸1.88m、深さ1.0mを測る。

SK109

平面は不定形で、長軸2.65m、深さ0.8m前後を測る。一部調査区外に広がる。詳細な遺構図は記載していない。なお出土遺物は図9-33・34は須恵器の坏身でヘラ記号有り。35は土師器甕、36は土師器碗。

SK110

平面は楕円形で長軸1.5m、短軸0.8m、深さ0.45mを測る。詳細な遺構図は記載していない。

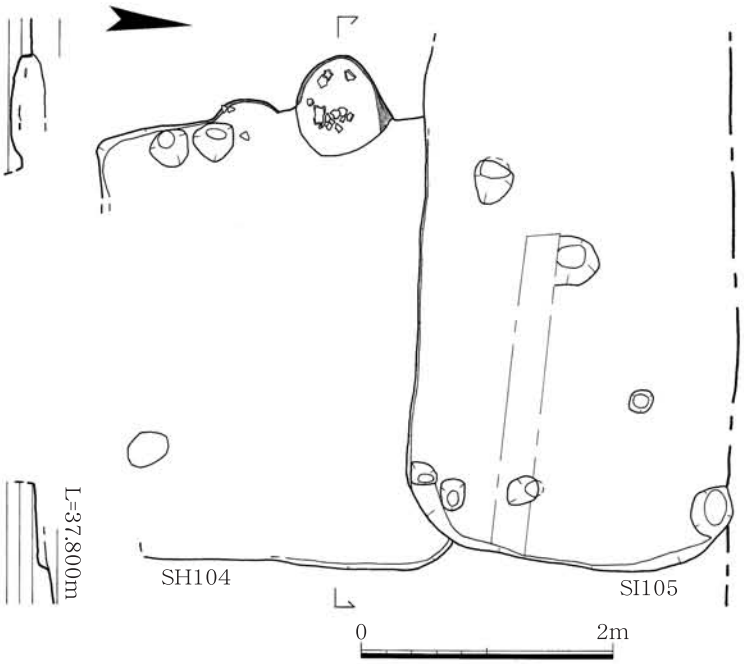


図12　SH104・SI105（1/60）

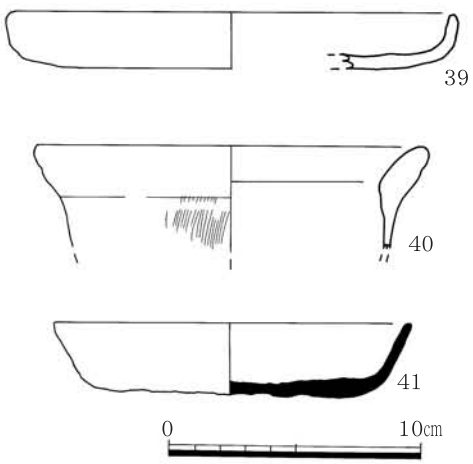


図13　SH104・SI105出土遺物（1/3）

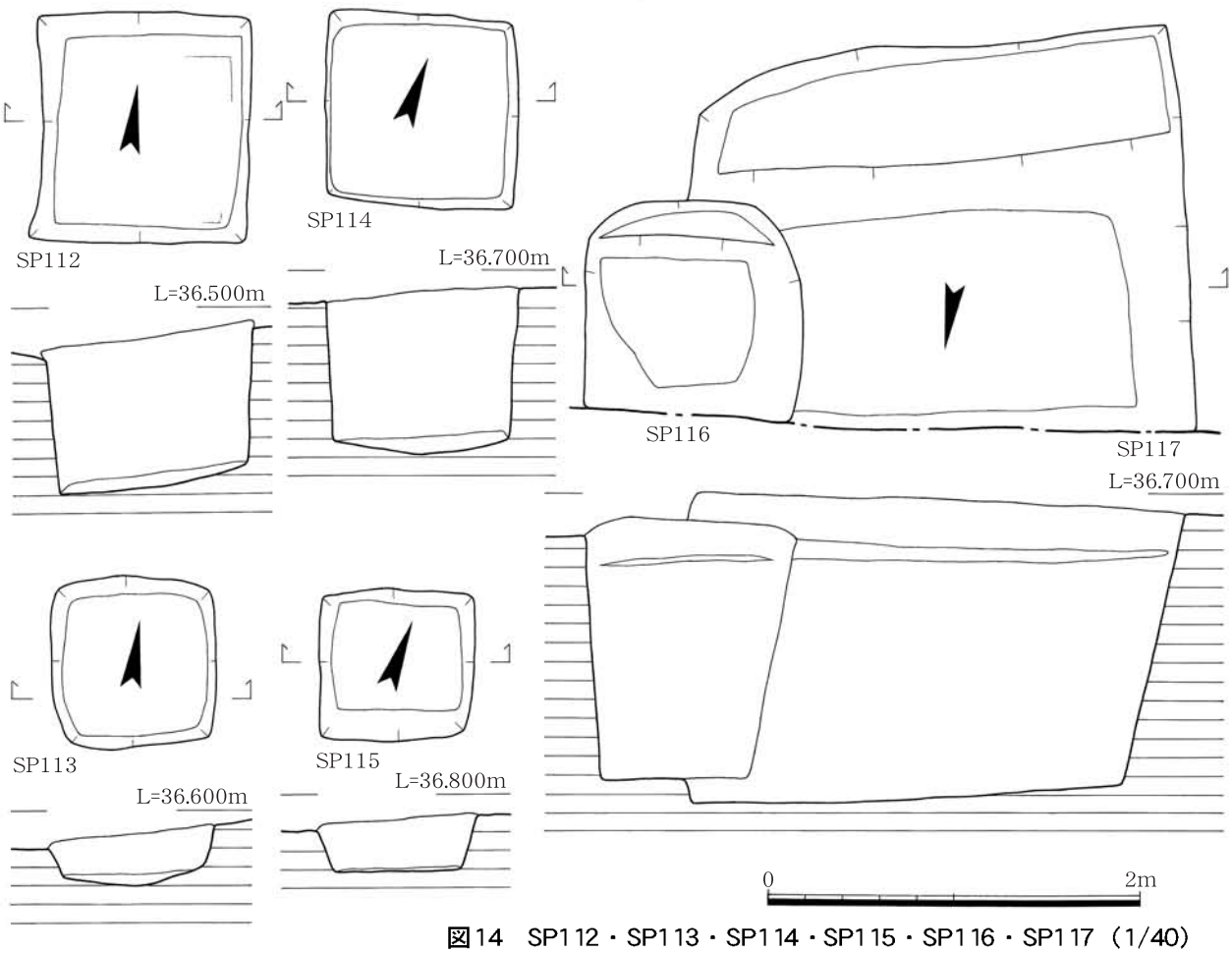


図14　SP112・SP113・SP114・SP115・SP116・SP117（1/40）

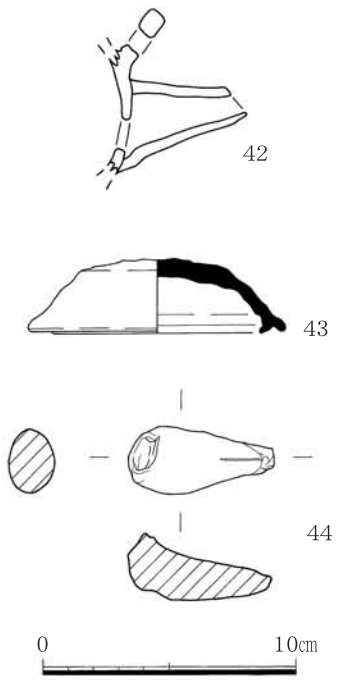


図15　SP114
・小穴出土遺物（1/3）

SK111

SH104と切り合い関係をもつ。平面は楕円形を呈し、長軸3.14m、短軸2.35m、深さ0.52mを測る。中央は配水管により削平を受けている。

出土遺物は、図11-37は土師器甕、38は須恵器壺。

SH104

切り合い関係はSK111を切っており、SI105から切られている。平面は方形で竈が西側壁に設置されている。残存状況が不良で竈袖等は確認できなかった。長軸3.5m、深さ0.2mを測る。

出土遺物は、図13-39の土師器皿がみられる。

SI105

切り合い関係はSH104を切っている。一部調査区外に広がる。住居の可能性も否定できないが、ここでは、竪穴として報告する。深さ0.1m前後を測る。

出土遺物は図13-40土師器甕、41は須恵器坏身。

SP112

平面は方形、長軸1.24m、短軸1.10m、深さ0.76mを測る。近世墓で、成人人骨1体が出土する。なお、

御棺は方形で鉄釘を使用している。

SP113

平面は方形で、長軸0.92m、短軸0.88m、深さ0.27mを測る。近世墓で、頭部の一部が出土する。

SP114

平面は方形、長軸1.04m、短軸1.02m、深さ0.98mを測る。近世墓で骨片が出土する。

出土遺物は図15-42水注の一部が出土している。

SP115

平面は方形、長軸0.83m、短軸0.81m、深さ0.28mを測る。わずかに鉄釘がみられるが、骨片などは確認できなかった。

SP116

一部が調査区外である。平面は方形と思われる。長軸1.16m、深さ1.41mを測る。二段掘りの近世墓で基底部から骨片が出土する。鉄釘がわずかに出土する。

SP117

一部が調査区外である。平面は方形と思われる。長軸2.66m、深さ1.67mを測る。二段掘りの近世墓でわずかに鉄釘が出土する。

Ⅲ．２区の調査

既存建物により、多くが削平を受けていた。そのなかで土坑６基を確認した。

SK201

平面は楕円形で長軸3.11m、短軸2.06m、深さ0.84mを測る。三段掘りで、壁面は段を有しながら立ち上がる。一部が削平を受けている。

出土遺物は、図17-45～48は須恵器の蓋で、うち46～48は摘みをもつ。49～51は須恵器の坏身で高台付、52は土師器甕、53は甑である。54は鉄鎌で木質が残る。

SK202

平面は楕円形で長軸1.34m、深さ0.93mを測る。三段掘りで壁面は段を有しながら立ち上がる。一部が削平されている。

出土遺物は、図19-55～57は須恵器の坏身、58・59は土師器甕。

SK203

平面は不定形で、長軸1.75m、深さ1.06mを測る。一部が調査区外である。壁面はフラスコ状の形態を有しながら立ち上がる。

出土遺物は図60・61土師器の坏身、62は土師器蓋、63は須恵器蓋、64は須恵器の坏身。63は摘みをも

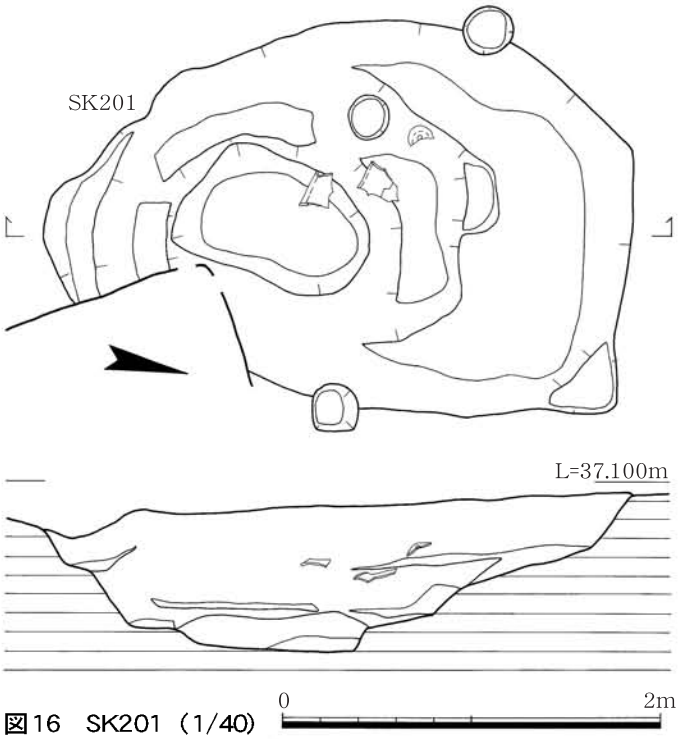
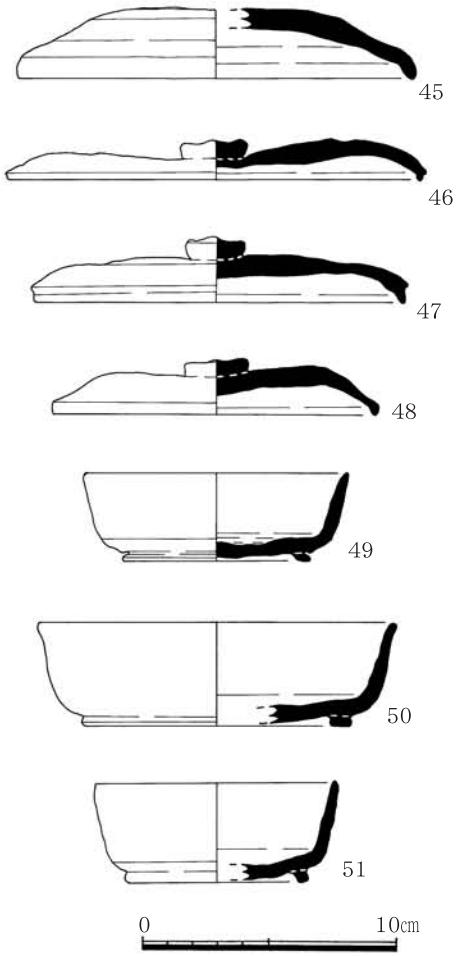


図16　SK201（1/40）



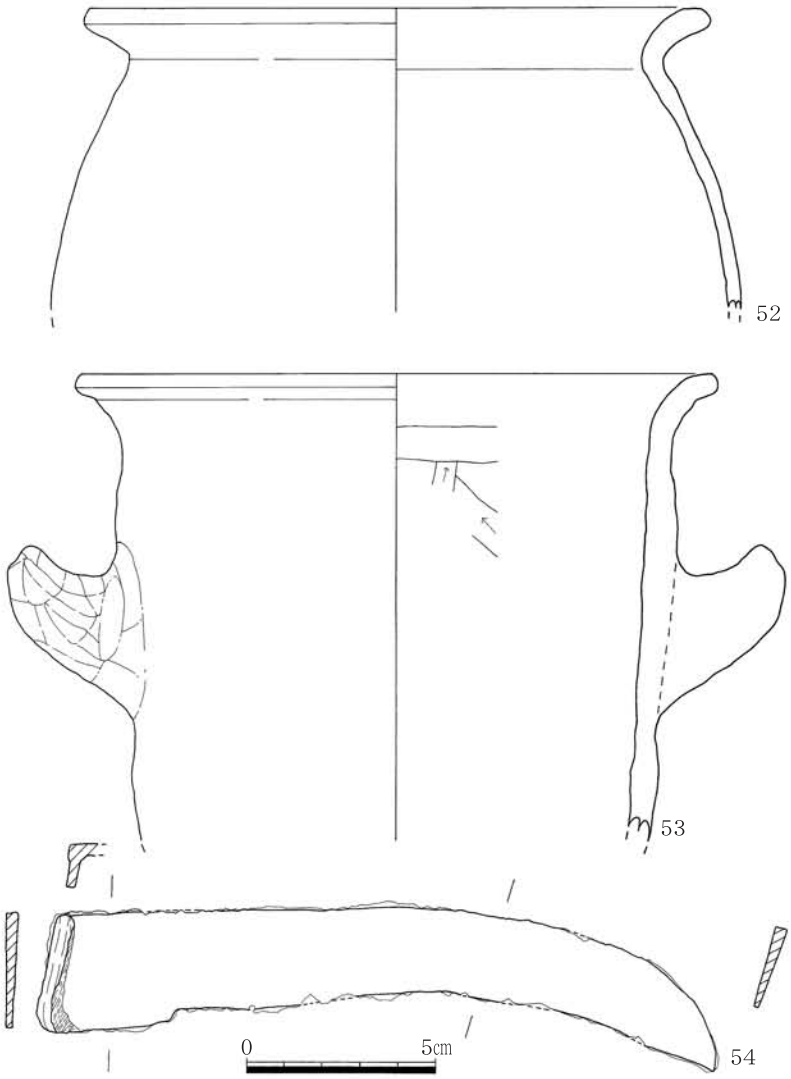


図17　SK201出土遺物（1/2・1/3）

つ。64は高台付。65は鉄鎌の一部で木質が残る。

SK204

平面は楕円形、長軸2.07m、短軸0.8m、深さ0.44mを測る。上部は削平されており、基底部のみを確認した。

SK205

平面は円形。長軸1.20m、短軸1.12m、深さ0.80mを測る。中央に柱跡がある。ここでは、土坑として取り上げる。

SK206

大部分が調査区外のため不明。

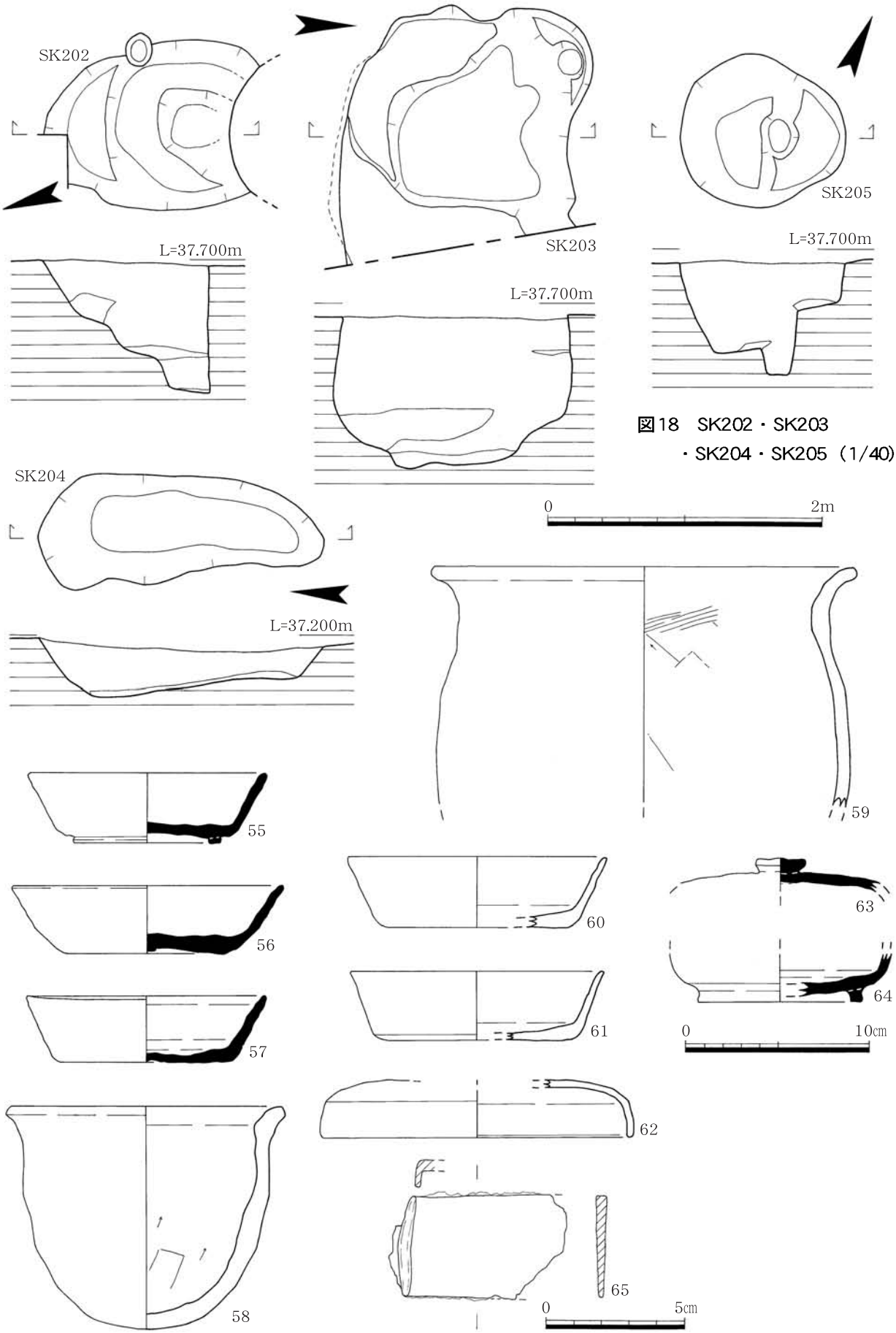


図18　SK202・SK203・SK204・SK205（1/40）

図19　SK202・SK203出土遺物（1/2・1/3）

表1　上天遺跡1区　遺物一覧表

法量の単位はcm。（　　）は復元径、〈　　〉は残存径。

番号	遺構	種別	器種	法量 ①口径 ②器高 ③底径	残存状況	色調 （　　）は内面	備考	登録番号
図5-1	SD101	染付	皿	①(13.0)　②4.0　③(7.9)	1/2残存。口縁部一部欠損。	灰白		090003
図5-2	SD101	染付	皿	①(13.5)　②4.1　③(8.5)	口縁部1/3残存。底部1/3欠損。	灰白		090004
図5-3	SD101	染付	皿	①12.2　②3.9　③4.6	口縁部1/3、高台1/3欠損。	灰白		090012
図5-4	SD101	染付	蓋	①(9.9)　②2.6	1/4残存。	灰白		090007
図5-5	SD101	染付	碗	①(8.5)　②3.7　③(3.7)	口縁部～底部1/4残存。	灰白		090011
図5-6	SD101	染付	碗	①(9.4)　②4.8　③(4.0)	口縁部1/5、底部1/8残存。	灰白		090006
図5-7	SD101	染付	碗	①(9.4)　②4.7　③(4.0)	口縁部～底部1/4残存。	灰白		090010
図5-8	SD101	染付	碗	①(11.0)　②5.8　③(3.7)	1/3残存。	灰白	下層出土	090020
図5-9	SD101	染付	鉢	①〈4.1〉　③9.2	底部完形。	灰白		090005
図5-10	SD101	陶器	瓶	②〈16.3〉　③7.1	口縁部以外完形。	にぶい黄褐	内部に金属塊	090008
図5-11	SD101	陶器	蓋	①7.0　②1.9	完形。	暗赤褐		090009
図5-12	SD101	染付	筒形碗	①(7.3)　②〈3.2〉	口縁部1/4残存。	灰白		090021
図5-13	SD101	陶器	甕	①(21.0)　②〈23.1〉	口縁部～底部にかけ欠損。	灰褐		090001
図5-14	SD101	陶器	甕	①(27.2)　②〈24.1〉	1/3残存。底部欠損。	灰褐		090002
図5-15	SD101	土師器	火入	②〈6.0〉		にぶい黄橙		090023
図5-16	SD101	土師器	小皿	②〈0.9〉　③(5.4)	底部1/3残存。	浅黄橙	糸切痕	090022
図5-17	SD101	金属	煙管	長6.6　幅1.0			中子有	090013
図5-18	SD101	金属	煙管	長5.5　幅1.0			中子有	090014
図5-19	SD101	金属	銅銭	長2.4			寛永通宝	090068
図6-20	SD101	瓦	丸	長31.6　幅〈13.3〉 厚2.2	1/5欠損。	灰		090015
図6-21	SD101	瓦	丸	長〈11.3〉　幅〈8.8〉 厚2.7	1/8残存	灰		090019
図6-22	SD101	瓦	丸	長〈9.4〉　幅〈7.9〉 厚2.8	1/8残存。	灰黄		090016
図6-23	SD101	瓦	丸	長〈10.5〉　幅〈10.6〉 厚2.0	1/6残存。	灰白		090017
図6-24	SD101	瓦	丸	長〈16.0〉　幅〈11.5〉 厚2.2	1/3残存。	青灰		090018
図6-25	SD101	瓦	軒丸	長〈7.2〉　厚2.0	1/4残存。	青灰		090025
図6-26	SD101	瓦	軒丸	長〈5.2〉　厚2.0	1/4残存。	灰		090026
図6-27	SD101	瓦	軒丸	長〈6.4〉　厚2.4	1/4残存。	浅黄橙		090028
図6-28	SD101	瓦	軒平	長〈4.5〉　厚2.4	1/5残存。	青灰		090024
図6-29	SD101	土師器	土錘	長5.0　幅1.9	ほぼ完形。	にぶい黄橙		090027
図6-30	SD102	白磁	壺	②〈12.7〉　③(9.8)	底部の一部、胴部1/4残存。	灰白		090029
図8-31	SK106	染付	皿	①(10.5)　②〈2.6〉	一部残存	灰白		090033
図8-32	SK107	土師器	甕	①(19.0)　②〈5.8〉	口縁部一部残存。	橙		090034
図9-33	SK109	須恵器	坏身	②〈1.8〉　③(9.8)	底部1/2残存。	灰黄 (にぶい橙)	ヘラ記号	090035
図9-34	SK109	須恵器	坏身	②〈1.8〉　③(9.4)	底部1/4残存。	橙	ヘラ記号	090036
図9-35	SK109	土師器	甕	①(20.7)　②〈10.5〉	口縁部1/5残存。	橙		090038
図9-36	SK109	土師器	碗	①(17.2)　②5.9	口縁部～底部まで1/4残存。	橙	朱	090037
図11-37	SK111	土師器	甕	①(22.6)　②〈7.6〉	口縁部1/4残存。	橙		090040
図11-38	SK111	須恵器	壺	①(13.0)　②〈3.5〉	口縁部1/4残存。	灰黄褐		090039
図13-39	SH104	土師器	皿	①(17.6)　②2.2	口縁部一部残存。	橙		090030
図13-40	SI105	土師器	甕	①(15.4)　②(4.0)	口縁部2/3残存。	橙		090031
図13-41	SI105	須恵器	坏身	①14.2　②2.9　③10.0	口縁部1/2残存。	黄灰		090032
図15-42	SP114	陶器	水注	注ぎ口長5.6	1/10残存。	暗赤褐 (明赤褐)		090041
図15-43	P115	須恵器	蓋	①10.2　②2.9	口縁部1/4欠損。	にぶい褐		090042
図15-44	P129	土師器	不明	長〈5.7〉　幅2.6	前後欠損。	にぶい黄橙	鳥形土製品？	090043

表2　上天遺跡2区　遺物一覧表

法量の単位はcm。（　　）は復元径、〈　　〉は残存径。

番号	遺構	種別	器種	法量 ①口径 ②器高 ③底径	残存状況	色調 （　　）は内面	備考	登録番号
図17-45	SK201	須恵器	蓋	①15.7　②〈2.8〉	1/3残存。	浅黄橙 （にぶい黄橙）		090047
図17-46	SK201	須恵器	蓋	①16.2　②1.6	1/2残存。	にぶい橙		090051
図17-47	SK201	須恵器	蓋	①14.6　②2.7	完形。	灰（灰白）		090048
図17-48	SK201	須恵器	蓋	①12.7　②2.2	1/2残存。	灰		090049
図17-49	SK201	須恵器	坏身	①(10.4) ②3.5 ③(7.4)	1/2残存。	灰白（灰）		090045
図17-50	SK201	須恵器	坏身	①(14.0) ②4.1 ③(10.6)	口縁部1/7、底部1/3残存。	灰白（浅黄）		090046
図17-51	SK201	須恵器	坏身	①(9.4)　②3.9　③(7.2)	1/3残存。	灰白(灰)		090044
図17-52	SK201	土師器	甕	①(24.3)　②〈11.9〉	口縁部1/4残存。	にぶい橙(黄橙)		090052
図17-53	SK201	土師器	甑	①(25.0)②〈18.3〉	口縁部1/4残存。口縁部～胴部にかけて1/6残存。	明黄褐(褐灰)		090053
図17-54	SK201	鉄器	鎌	長18.0	完形。			090054
図19-55	SK202	須恵器	坏身	①(13.0)　②3.8　③(8.0)	口縁部3/4欠損。	灰		090058
図19-56	SK202	須恵器	坏身	①(14.6)　②3.6　③(8.6)	口縁部～胴部5/6欠損。	橙		090055
図19-57	SK202	須恵器	坏身	①13.0　②3.6　③9.4	口縁部1/6欠損。	にぶい黄		090057
図19-58	SK202	土師器	甕	①(7.6)　②12.0	口縁部～底部まで1/4残存。	橙		090056
図19-59	SK202	土師器	甕	①(23.0)　②〈12.9〉	口縁部～胴上部1/6残存。	橙		090060
図19-60	SK203	土師器	坏身	①(14.0) ②3.8 ③(10.0)	口縁部1/2、底部1/3残存	橙		090062
図19-61	SK203	土師器	坏身	①(13.6) ②3.7 ③(10.2)	口縁部一部、胴部1/2残存。底部2/3欠損。	黄橙(浅黄橙)		090063
図19-62	SK203	土師器	蓋	①(17.0)　②3.1	口縁部1/3残存。	黄橙		090061
図19-63	SK203	須恵器	蓋	②〈1.8〉　つまみ2.6	一部残存。	灰白		090065
図19-64	SK203	須恵器	坏身	①(8.9)　②〈2.6〉	底部1/3残存。	灰白		090064
図19-65	SK203	鉄器	鎌	長〈6.0〉	1/5残存。			090066

第４章　まとめ

調査の結果、古墳時代後期の集落跡（住居跡１軒・土坑10基）、中近世の溝、近世墓などを確認した。

注目する遺構としては、東西に伸びるSD101、SD101に直交するSD102、SD101に接しＬ字に曲がるSD103である。江戸時代中期の陶磁器をはじめ、瓦片が多数出土した。

SD101断面は、逆台形を有している。中世後期の溝と推測されるが、同時期の遺物の出土はわずかにすぎず、大半は江戸時代中期のものが占める。このことから中世後期から江戸時代中期まで継続して使用されていたものと思われる。また、溝が東に延びると仮定すると現在の田代地区の町割りの一部と一致するなど興味深い。SD103については、南側に伸びることがわかっており、区画された空間の存在が伺える。

溝が作られた時期は、南側に隣接する浄土真宗光徳寺が、天文11年（1542）に筑紫氏家臣天本右衛門尉によって創建したと伝えられる時期と重なる。寺領境の溝の可能性も指摘でき、溝より北側では中近世の遺構遺物は出土していない。また、寺領には江戸時代中期に浄土真宗の「筑紫御坊」が立地していたとされ、溝が埋没する時期と同一である。御坊創建の際、役割を終えたものと思われるが、仏具関係の遺物は今回の調査では出土していない。なお筑紫御坊は、明治3年（1870）に西法寺（蔵上町）に移転するまで当地にあったとされており、その後、光徳寺が再建された模様である。

近世墓が6基確認できたが、そのうち5基については、わずかに骨片が見られるが再葬されていた様子である。しかしSP112については、再葬され損ねた模様で、一個体の人骨が出土した。御棺は木製と思われ、方形のものを使用している。

今回の調査で、上天遺跡があるこの丘陵は、古墳時代後期の集落が点在していることがわかってきた。また中近世にかけての田代地区の町並みの成立過程、また筑紫御坊の成立の時期についても、文献との一定の整合性が取れたことは、大きな成果といえる。

1．1区・２区全景（南から）

2．1区全景（南東から）

3．SD101・SD103（東から）

4．SD101（西から）

5．SD101（北西から）

写真図版2

1．SD101陸橋（南西から）

2．SD101陸橋土層（南から）

3．SD102（北西から）

4．SH104・SI105（北東から）

5．SK106・SK107・SK108（北東から）

6．SK111（北東から）

7．SP112～SP117（北東から）

8．作業風景（南東から）

1．２区全景（西から）

2．２区全景（南東から）

3．SK201（西から）

4．SK202（北から）

5．SK203（南から）

1．SD101出土遺物

2．SD101出土遺物

3．SD101出土遺物

4．SD101出土遺物内　鉄滓

5．SD101出土遺物

6．SK201出土遺物

7．SK201出土遺物

8．SK202出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	かみあまいせき
書名	上天遺跡
副書名	共同住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書
シリーズ名	鳥栖市文化財調査報告書
シリーズ番号	第82集
編著者	島　孝寿
発行機関	鳥栖市教育委員会
所在地	〒841-8511　佐賀県鳥栖市宿町1118番地　　TEL0942-85-3695
発行年月日	平成22(西暦2010)年3月12日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
上天遺跡 1・2区	佐賀県鳥栖市田代大官町 字下町336番1	410213	－	33° 23′ 26″	130° 31′ 05″	20090914 ～ 20091027	600㎡	共同住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上天遺跡 1・2区	集落跡	古墳 中近世	住居・土坑・溝・近世墓	土師器 須恵器 陶磁器 瓦	古墳時代の集落跡 中近世の集落跡

鳥栖市文化財調査報告書第82集

上天遺跡

―　共同住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書　―

平成22年3月12日　発行

発行　　鳥栖市教育委員会
佐賀県鳥栖市宿町1118番地

印刷　　松雪印刷所
佐賀県鳥栖市本町3丁目1503番地